



2019年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年1月7日

上場会社名 ダイユー・リックホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL http://www.daiyulic-hd.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略室長 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 2019年1月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年2月期第3四半期の連結業績(2018年3月1日~2018年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年2月期第3四半期	59,818	1.7	1,542	△7.8	1,782	△3.8	1,039	△13.8
2018年2月期第3四半期	58,784	37.0	1,674	43.7	1,852	45.2	1,205	51.6

(注) 包括利益 2019年2月期第3四半期 1,067百万円(△15.9%) 2018年2月期第3四半期 1,269百万円(60.0%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2019年2月期第3四半期	70	24	69	91
2018年2月期第3四半期	81	75	81	36

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年2月期第3四半期	56,558	23.1	14,176	23.1	23.1	23.1
2018年2月期	54,098	22.5	13,224	22.5	22.5	22.5

(参考) 自己資本 2019年2月期第3四半期 13,101百万円 2018年2月期 12,187百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2018年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00	—
2019年2月期	—	13.00	—	—	—	—
2019年2月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年2月期の連結業績予想(2018年3月1日~2019年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	80,500	2.2	1,900	11.6	2,100	8.4	1,250	20.6	84	77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一 、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年2月期3Q	15,174,203株	2018年2月期	15,174,203株
② 期末自己株式数	2019年2月期3Q	197,210株	2018年2月期	430,093株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年2月期3Q	14,792,279株	2018年2月期3Q	14,745,922株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2018年3月1日～2018年11月30日）におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に雇用環境も好調に推移するとともに、IoTを中心とした設備投資についても改善傾向にあり、緩やかな回復基調の景況感が見られました。一方で、労働需要逼迫による人件費や物流費の上昇懸念や、米国の保護主義への傾倒に起因する貿易摩擦リスクの高まりから資本市場への影響が懸念されるなど、先行き不透明感を払拭できない状況であります。

流通小売業におきましては、オーバーストア状態にあり、出店立地の確保が困難な状況の中で出店競争が激化しており、さらに地方においては少子高齢化、人口減少といった社会構造の変化が顕著であり、顧客の獲得競争もより一層厳しい経営環境となっております。個人消費につきましては、雇用環境が好転する反面、非正規雇用形態が多く、将来の見通しがたたない不安から家計の生活防衛意識が高まっていること、さらに、依然として節約志向が根強く、本格的な消費回復には至っていない状況であります。

このような状況下、当社グループは、さらなる成長戦略実現に向け当第3四半期連結累計期間におきましても以下のとおり新規出店を行いました。

ダイユーエイト	ホームセンターダイユーエイトさくら氏家店	(開店3月 栃木県)
	ホームセンターダイユーエイト那須塩原上厚崎店	(開店11月 栃木県)
アミーゴ	ペットワールドアミーゴ金沢おこばた店	(開店4月 石川県)
	ペットワールドアミーゴ長野篠ノ井店	(開店7月 長野県)
ジョーカー	JOKER伊勢丹浦和店	(開店3月 埼玉県)

なお、8月に家具専門店を1店舗、11月にペット専門店を1店舗それぞれ閉鎖しております。これにより当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、194店舗となりました。

また当社は、2018年11月8日開催の取締役会において、株式会社パローホールディングスの完全子会社である株式会社ホームセンターパローとの間の株式交換により、当社及び株式会社パローホールディングスのホームセンター事業を統合するとともに、両社の間において資本上の及び業務上の提携を行うことを決議し、同日付で、当社並びに株式会社パローホールディングス及び株式会社ホームセンターパローの間で提携契約を締結しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結売上高は、598億1千8百万円（前年同期比1.7%増）、連結営業利益は15億4千2百万円（同7.8%減）、連結経常利益は17億8千2百万円（同3.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億3千9百万円（同13.8%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、来店客数が前年同期比で1.3%減少、客単価についても前年同期比で0.6%減少したことにより、既存店売上高は1.9%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先から平均気温が前年を上回った影響により農業薬品、農業肥料、用土を中心として農業資材、園芸、植物等のホームニーズ商品の売上高が前年同期比で伸張いたしました。また、今期は営業開始時間を従来の9時30分から9時に変更したことが売上高の底上げに寄与しております。ゴールデンウィーク以降は天候不順が続き、レジャー関連商品、エクステリア、家庭用品を中心に売上高が前年を割込んだほか、ガーデニング、花特集等の企画についても計画数値を下回る結果となりました。6月に入って気温の上昇とともに冷房関連商品、夏寝具、日よけ商品等の夏物季節商品の売れゆきが好調でしたが、夏場は連日の猛暑日の影響で前年比で来店客数が減少したことにより売上高についても前年比で大きく落ち込む結果となりました。秋口に入ってからも例年より気温が高い日が続いたことで、農業資材、園芸、植物関連商品の売上が伸長した一方で、通年を通してこの端境期が一番気温等の天候与件の影響が大きく、暖房家電商品等の季節商品、冬物準備商品の売上不振が続いた影響により、既存店ベースにおいて前年を割込む結果となりました。

今期は商品政策として、グループシナジー効果発揮の重点取組みとして、ホームセンター材の仕入取引先並びに商品のグループ内での統一を進めており、グループ内での商品調達効率性を高め荒利率の改善に取組んでおります。またホールディングス体制移行後より売上構成比率を高めている自社開発商品「DLブランド」は、取扱商品が5,000品目を超え順調に推移し、荒利率改善のほか、品質と機能性を高め、お客様への一層の認知度の浸透を図っております。

販売面につきましては、他業態との差別化をすべくテーマ性のある売場構築に取り組んでいるほか、従来から進めている「ホームセンターらしさ」を実現するため、ホームニーズ商品を強化するとともに、農家需要へ対応すべく農業資材部門の品揃えを充実させ、さらに「まとめ買い」のニーズに対しても一層の強化を第3四半期を通じて取り組んで参りました。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は308億5千8百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益（営業利益）は7億7千万円（前年同期比9.1%減）となりました。

[リックコーポレーション]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で1.3%増加しましたが、客数が前年同期比で3.7%減少したことから、既存店売上高は2.4%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向は、夏季の猛暑により害虫の発生が少なく、雑草の成長も遅かったことから日用品・園芸・植物等の売上高が低迷いたしました。秋口は天候に恵まれたことにより、木材・塗料・用土・園芸肥料・植物等の売上が好調に推移いたしました。一方、冬季については気温が高くインテリア・家電・灯油等の季節商品の落ち込みにより売上高が低迷しております。その他、日用品については価格訴求を行っていることから好調に推移していますが、消費者の節約志向、異業種との販売競争が加速していることもあり厳しい状況が続いております。また、7月に発生した西日本豪雨災害により、被災地に近い店舗では引き続き復興需要商品を提供しております。

そのような状況の中で、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターとして進化するためにフラダンスチームを招致したALOHAフェスティバル、季節の花卉や園芸用品の特別販売を中心としたHANAフェス等のテーマ性のあるイベントを実施し、お客様が当社タイムのファンになっていただくための政策を実施しております。その他、新たな取組みとして「TIME'S FARM(自社生産ブランド)」のラベルのついたシクラメンの販売を開始し、各店舗を通じて新鮮な商品をお客様にお届けしております。

販売費及び一般管理費につきましては、作業に応じた人員の配置、HD統一システム導入による効率化、間接部門の経費削減を行うことで必要コストの圧縮を行っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は115億3千万円(前年同期比3.1%減)、セグメント利益(営業利益)は2億2千万円(前年同期比33.6%減)となりました。

[アミーゴ]

ペットショップアミーゴは、既存店ベースで来店客数が前年同期比で0.6%増加、客単価が前年同期比で2.1%増加したことから、既存店売上高は2.7%増加となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、期首より例年と比較して気温が上昇した影響により4月からクール用品が好調で、特に7月以降、夏物ウェア、飲料、おやつ売行きが好調であったこと、また、既存店を活性化することを目的として店舗改装、商品部門の棚替えを実施し、棚割を一新したことによりペットフード、用品等の物販部門については、専門店ならではのプレミアムフード、ペットウェアの販売が堅調に推移いたしました。また、犬、猫生体の販売頭数が前年同期比で1.0%、売上高が前年同期比で1.9%それぞれ増加しております。アクアリウム部門については、水草やメダカ等の強化カテゴリーに集中した取組みが、新規顧客、コアユーザーの獲得に寄与し、観賞魚の売上高が前年同期比で伸長いたしました。小動物部門については、夏場の災害や酷暑の影響により、うさぎ、フェレットなどの繁殖数が減少したこと等により前年比で販売頭数が減少した一方で、小動物人気を背景にフード、飼育用品等の消耗品については堅調な売上を維持しております。サービス部門については、ドッグトレーナーが野外教室などのイベントで精力的に活動し、しつけ教室部門が前年同期比32.0%増加いたしました。トリミング部門は需要が高まる一方で、トリマー人材確保の進捗が計画を下回っており、同部門の売上高は前年同期比で減少しております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は126億2千7百万円(前年同期比6.7%増)、セグメント利益(営業利益)は4億7千3百万円(前年同期比67.4%増)となりました。

[その他]

セグメント売上高は99億7千1百万円(前年同期比4.2%増)、セグメント利益(営業利益)は5億9千1百万円(前年同期比25.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が565億5千8百万円、負債が423億8千1百万円、純資産は141億7千6百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は23.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2018年4月12日付「平成30年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及修正は行っておりません。

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

これにより、従来の方々と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が126,932千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,780,950	4,959,346
売掛金	576,959	934,942
たな卸資産	14,183,745	16,271,067
その他	2,117,792	2,146,913
貸倒引当金	△2,952	△3,195
流動資産合計	21,656,495	24,309,074
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	32,300,917	33,158,588
減価償却累計額	△18,631,463	△19,161,440
建物及び構築物（純額）	13,669,453	13,997,147
土地	4,292,902	4,302,453
リース資産	2,719,752	2,756,547
減価償却累計額	△1,192,797	△1,271,789
リース資産（純額）	1,526,954	1,484,758
その他	3,149,401	2,659,615
減価償却累計額	△1,646,413	△1,758,939
その他（純額）	1,502,988	900,675
有形固定資産合計	20,992,299	20,685,035
無形固定資産		
のれん	2,272,403	2,180,279
その他	1,877,756	1,929,382
無形固定資産合計	4,150,159	4,109,661
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,166,200	5,128,120
その他	2,192,151	2,384,760
貸倒引当金	△58,374	△58,360
投資その他の資産合計	7,299,977	7,454,519
固定資産合計	32,442,436	32,249,216
資産合計	54,098,931	56,558,291

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,112,898	5,434,365
電子記録債務	6,054,086	6,361,129
短期借入金	2,050,000	2,350,000
1年内返済予定の長期借入金	4,262,257	4,878,033
リース債務	547,071	548,268
未払法人税等	691,594	386,914
ポイント引当金	302,874	314,957
転貸損失引当金	32,159	7,200
その他	4,554,126	3,866,965
流動負債合計	22,607,068	24,147,833
固定負債		
長期借入金	13,691,348	13,806,672
リース債務	1,295,549	1,263,715
役員退職慰労引当金	78,220	83,132
転貸損失引当金	8,100	2,700
退職給付に係る負債	479,044	496,808
資産除去債務	974,644	976,464
その他	1,740,192	1,604,585
固定負債合計	18,267,098	18,234,078
負債合計	40,874,166	42,381,911
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,558,785
利益剰余金	5,902,418	6,557,543
自己株式	△167,386	△76,926
株主資本合計	12,110,400	13,039,403
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	112,954	85,911
退職給付に係る調整累計額	△35,745	△24,272
その他の包括利益累計額合計	77,209	61,639
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	995,541	1,033,722
純資産合計	13,224,765	14,176,380
負債純資産合計	54,098,931	56,558,291

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年3月1日 至2017年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)
売上高	58,784,584	59,818,903
売上原価	39,541,509	40,024,148
売上総利益	19,243,075	19,794,755
営業収入	2,030,371	2,040,149
営業総利益	21,273,446	21,834,904
販売費及び一般管理費	19,599,222	20,292,156
営業利益	1,674,224	1,542,748
営業外収益		
受取利息	24,513	23,419
受取配当金	5,262	4,394
受取手数料	264,253	273,116
その他	104,578	119,329
営業外収益合計	398,608	420,260
営業外費用		
支払利息	144,821	127,532
借入手数料	52,364	28,323
その他	22,865	24,787
営業外費用合計	220,051	180,642
経常利益	1,852,780	1,782,366
特別利益		
固定資産売却益	2,363	34,934
受取損害賠償金	46,015	15,000
受取補償金	78,594	-
その他	10,813	720
特別利益合計	137,786	50,654
特別損失		
固定資産売却損	4,258	14,930
固定資産除却損	9,809	1,311
投資有価証券評価損	-	1,296
減損損失	5,509	3,770
その他	7,589	-
特別損失合計	27,167	21,308
税金等調整前四半期純利益	1,963,398	1,811,712
法人税、住民税及び事業税	808,547	777,814
法人税等調整額	△88,431	△49,892
法人税等合計	720,115	727,921
四半期純利益	1,243,283	1,083,791
非支配株主に帰属する四半期純利益	37,708	44,639
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,205,574	1,039,151

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年3月1日 至 2017年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)
四半期純利益	1,243,283	1,083,791
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,836	△27,376
退職給付に係る調整額	6,010	11,473
その他の包括利益合計	25,847	△15,903
四半期包括利益	1,269,130	1,067,887
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,231,825	1,023,581
非支配株主に係る四半期包括利益	37,304	44,306

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年6月4日付の取締役会において、当社の取締役及び従業員、当社子会社の取締役及び従業員に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分を行うことを決議し、233,300株を処分しました。この結果、資本剰余金が183,417千円増加し、自己株式が90,943千円減少しております。

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及修正は行っておりません。

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

これにより、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が126,932千円増加しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年3月1日 至 2017年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注) 2						
外部顧客への売上高	29,765,664	11,644,988	11,833,250	53,243,904	7,571,052	60,814,956
セグメント間の内部 売上高又は振替高	393,852	260,598	—	654,450	1,997,529	2,651,979
計	30,159,517	11,905,587	11,833,250	53,898,354	9,568,581	63,466,936
セグメント利益	848,039	333,030	282,714	1,463,783	471,485	1,935,268

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注) 2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,463,783
「その他」の区分の利益	471,485
セグメント間取引消去	△204,894
のれんの償却額	△92,124
固定資産の調整額	41,824
その他	△5,850
四半期連結損益計算書の営業利益	1,674,224

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	30,464,435	11,339,708	12,627,016	54,431,160	7,427,892	61,859,053
セグメント間の内部 売上高又は振替高	393,900	190,430	—	584,331	2,543,378	3,127,710
計	30,858,336	11,530,138	12,627,016	55,015,492	9,971,271	64,986,764
セグメント利益	770,832	220,863	473,541	1,465,237	591,395	2,056,633

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,465,237
「その他」の区分の利益	591,395
セグメント間取引消去	△455,500
のれんの償却額	△92,124
固定資産の調整額	39,590
その他	△5,850
四半期連結損益計算書の営業利益	1,542,748

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(1) 「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

(2) 「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の「リックコーポレーション」のセグメント利益が126,932千円増加しております。

4. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。